

第1学年6組英語科学習指導案

1 題材 Program 5 由紀, アメリカに行く

2 指導観

○ 一昨年度、文部科学省は『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』をスタートさせた。また、現行学習指導要領では、実践的コミュニケーション能力を生徒に求めることとなった。したがって、英語教師は生徒のコミュニケーション能力の育成のために、**communicative approach** などさまざまな工夫をしなくてはならない。

本課は、機内と入国審査、そして出迎えという外国旅行につきものの3つの場面を設定している。今では中学生にとっても外国旅行は身近なものになっており、将来自分にも必要になる表現を学びたいという動機付けを与えて、基本表現を習得させることをねらいとしている。また、機内での放送や会話、人を出迎えるときの表現が **listening** 中心に構成されている。**listening** や **speaking** など音声中心に指導するにはよい言語材料といえる。

Section1 では、飲み物をめぐっての簡単な会話の中で、自分がほしい物をきちんと注文することができることを目標としている。**Section2** では、入国審査でパスポートの提示を求められるが、決まりきった簡単なやり取りができるようにすることで自信をつけさせ、コミュニケーションへの意欲を育てたい。

これらの表現を学習することで、生徒にコミュニケーション活動の広がりを実感させるとともに、将来自分たちが外国へ行ったり、自分が外国で出迎えられたり、自分が外国の人を出迎えるときにコミュニケーションをすることができるようになることを願っている。

○ 本学級は男子 22 名、女子 18 名、計 40 で構成される。本学級の生徒は英語学習についての興味・関心があり、外国映画や外国のニュースに関心を持ち、日ごろから聞いているものもいる。また、外国へ旅行したり、ニュージーランドへの留学を夏休みに経験したりした生徒もいる。学習活動でも積極的に発言し明るい雰囲気であるが、書くことや話すことに苦手意識をもつ生徒もいる。

9月はじめのアンケートによれば、小学校で「英語活動があった(毎週～月に1回)」と答えた生徒が約 20 名いる。小学校で「ほとんど(まったく)英語活動がなかった。」と答えた生徒は 14 名いる。そのほかの生徒は、1年間に数回程度英語活動をした生徒たちである。小学校で英語活動を経験した生徒は、おおむね英語に興味を示す傾向にある。

そのうち数名は授業中に積極的にコミュニケーション活動に参加する。小学校での英語活動を『楽しい』と感じた生徒は、約 75 パーセントに上る。これを中学校と比較すると、中学校の授業を『楽しい』と答えた生徒は約 65 パーセントとなり、10ポイント低下している。

小学校の授業が楽しいと答えた生徒は、その理由にゲームでのコミュニケーション活動や ALT とのふれあいをあげる生徒が多かった。中学校では、楽しいと感じる理由に、単語を覚えることやゲームをしたり、英語を書いて表現できることなどがあつた。さらに、中学校の英語を『楽しくない』と感じる生徒は 35 パーセントおり、その理由に、単語を覚えることができない、英語を聞き取ったり、発音したりすることが難しい、などをあげていた。

○ 指導に当たっては、小学校からあがってきた生徒を中学校の英語学習にスムーズに移行させるためには、アンケート結果をもとに、以下の点に留意する。

- ・ 音声中心の授業を心がけること
- ・ 音声から文字の導入に当たっては、音声と文字の関係をつかませるような指導法の工夫を行う。
- ・ より **communicative** な活動の工夫をし、指導法においても小・中連携の観点からチャンツや英語の歌などを多く取り入れる。
- ・ 小学校で育まれた英語学習へ興味・関心をさらに伸ばしていくような指導法を工夫していく。

本課全体を、コミュニケーション活動の段階(本時)、リスニングの段階、スピーキングの段階の3つの段階として捉えている。

まず、第1段階のコミュニケーション段階では、空港での入国審査の場面設定を行い、旅客と入国審査官の会話を練習させる。既習表現のほかに、入国目的、目的地や滞在日数などの質問や応答する表現を導入し、使用場面を意識させながら指導を行う。授業の最初に、天気や曜日、日付など簡単な英語の質問に答えさせて、英語学習が **communicative** になるように心がける。

第2段階のリスニングの段階では、3種類の機内放送や車内放送を聞き取らせて、場面や内容を理解させるなどしてリスニング中心に授業を展開する。そのほか、音声以外にも音響などによってもその場面や内容を類推することができることにも意識を向けさせる。

第3段階のスピーキングの段階では、聞き取った表現を発話できるように、シャドーイングやスピード(シンクロ)リーディング、日本語をすぐに英語に翻訳する活動などで反復練習を行う。さらに、チャンツなどによる音声指導も繰り返し行いたい。チャンツによる指導は、特に小学校の英語活動を受けてきた生徒にとってなじみが

あり、小学校と中学校の連携という意味では、英語学習初期の段階において重要であると考ええる。

3 小・中連携について

本研究室における小・中学校の連携は、小学校と中学校の 9 年間の学習をトータルで考えながら、実践的コミュニケーション能力の芽を大切に育むことであると考えている。

小学校で育まれた英語学習への意欲が中学校での文字導入の段階で、音と文字とがスムーズにつながらず、書くことに多くの生徒が難しさを感じ、多くの生徒が苦勞している現実がある。特に 1 年生という学習段階では、小学校で身に着けた音声による英語を文字につなげていく大切な段階である。そこで、小学校で学習してきたことを引き継ぎつつさらに伸ばしていく指導法が工夫することが大切である。このようなことから、小学校の指導方法である音声からの導入による授業を進めることや、空港での場面設定をし、ネイティブとのモデル会話を聞かせることで、音声から新出表現に慣れさせていくようにする。さらに、小学校でよく取り入れられているチャンツなどの手法を取り入れ、繰り返しリズムに合わせて練習させ身につけさせていく。このように中学校では、小学校での指導法を取り入れ、十分に音声からの導入することにより、実践的コミュニケーション能力の芽を伸ばしていくことができると考える。

3 目標

- 間違いを恐れずにコミュニケーションをしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 機内や空港での基本的な会話や人を出迎えるときの挨拶ができるようにする。(表現の能力)
- 機内放送や車内放送の内容を正しく聞き取ることができる(理解)
- 各場面での適切な英語の用法を理解している。(言語や文化についての知識理解)

4 計画(4時間)

○Program5-1	導入	1時間	
○Program5-1	聞き取りと書く練習	1時間	
○Program5-2	導入	1時間	・・・ 本時
○Program5-2	聞き取りと書く練習	1時間	

配時	活動内容	留意点	評価基準 (評価の方法)	評価基準 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)	評価基準 (表現, 理解, 言語や文化)	
					A	B
1 1	<p style="text-align: center;">機内や空港での基本的な会話や人を出迎えるときの挨拶ができるようにしよう!</p> <p>数種類の機(車)内の放送を聞き、その交通機関や場所などを判別する活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成田空港へ行くバスの車内放送 東京へ向かう新幹線の車内放送 ニューヨーク行きの飛行機の機内放送 <p>飛行機内や入国審査や人を出迎えるときの表現をチャンツで練習し、ロールプレイをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りが不得意な生徒のためにいくつかのヒントを用意しておく。 モデルの対話を示し、状況に応じて自分で語句を選択するようにする。 チャンツで繰り返し練習する。 	<p>理：数種類の機(車)内放送を聞き、使われている交通機関がわかる。(発音チェック, 様相分析)</p> <p>関：機(車)内放送に興味を持って聞いている。(活動状況チェック)</p> <p>理：機内, 入国審査や出迎えるの場面での英語を聞き、状況を把握することができる。(プリント分析)</p> <p>出迎えるの挨拶などのグループワークに楽しみながら取り組んでいる。(様相分析)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持って CD を聞いている。 絵や音を参考にして、聞き取れた語句から、内容を推測しながら聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 放送の内容を聞いて、すべて正確に聞き取り、状況を把握できる。 機内放送, 入国審査や出迎えるの場面での対話内容もよく理解でき、答えに対してもすばやく記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 放送の内容をいくつかのキーワードを聞き取ることで、状況をほぼ把握することができる。 機内放送, 入国審査や出迎えるの場面での対話内容が大体わかり、質問にも答えている。
1 本時	<p>ペアやグループで空港での入国審査のロールプレイをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入国カードや古いパスポートなどを準備し、臨場感を高める。 小道具を使用するなど使用場面を意識させ、答えられるようになるまで練習させる。 	<p>表：飛行機内や入国審査の場面での質問に適切に応じることができる。(発言, 活動状況チェック)</p> <p>言：各場面で適切な英語の用法を理解している。(プリント分析)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで協力してロールプレイに取り組んでいる。 設定された場面の人物になったつもりで生き生きと楽しそうに対話練習している。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面にふさわしい適切な応答を、正しい発音やイントネーションで行う。 各場面の対話で、適切な英語を選択したり、正しいスペリングで書いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話を正確に覚え、その場に応じて役になったつもりで発表している。 各場面の対話で適切な英語を選択できる。
1	<p>整理とまとめ</p>					

5 本時 平成 16 年 11 月 10 日(水) 第3校時(11:05~11:55) 於:1 年 6 組教室

(1) 本時の指導観

本課は、音声による実践的コミュニケーション能力を育てるのに適した題材である。本時は、入国審査での簡単な会話を理解させ、運用できるようにさせることをねらいとする。授業のはじめから音声を中心に授業を展開していき、まず、簡単な日常会話でコミュニケーション活動の雰囲気をつくる。新しい表現の導入については、ALT と JET とのモデル会話を聞かせて、新出表現の意味や運用方法を理解させる。チャンツなどのリズムを用いた指導法を導入し、発音することが苦手な生徒にも楽しみながら英語の表現を身につけさせたい。実際に近い場面の言語活動を設定し、実践的コミュニケーション能力の芽を育てて生きたいと考えている。

(2) 本時の主眼

- 間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを行おうとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 空港での会話を既習の表現を用いて会話することができる。(表現の能力)
- 空港での会話を聞いて、場面や内容を理解する。(理解の能力)

(3) 準備

- ①拡大紙(プリントNo1) ②プリント No.1(入国審査) ③プリント No.2(パスポート, Self-Evaluation Card , シール用の表) ④国旗(7カ国)
- ⑤国旗シール ⑥世界地図 ⑦Office と Passenger カード ⑧教科書, ノート

(4) 過程

学習活動・活動内容	教具資料	留意点 ☆は ALT の活動	形態	配時	活動分析	評価規準 (評価方法)	評価基準
1 あいさつをする。 Good morning. How are you? I'm great. など		・まず, JTE と ALT があいさつをする。 ☆挨拶の後, ALT が簡単な自己紹介をする。 My name is …… . I'm from Australia. I like Japanese food, sushi, tempura, and so on.	一斉	5	L,S		
2 新出表現の導入 ①モデル会話を聞く Officer: Your passport, please. Passenger: OK. Here you are. Officer: What's your name? Passenger: My name is …… . Officer: What's the purpose for traveling?	①②	・生徒にわかりやすく, ゆっくりと 2 回繰り返す。 ・ALT は係官の帽子をかぶり臨場感を出す。 ☆いくつか質問をして生徒の理解を確認する。 ・生徒に会話のプリントを配り, 表現を確認させる。 ・Today's Aim を黒板に貼り, ねらいの確認をする。	一斉	10	L	理: 会話の内容を理解できる。	A: 会話の内容を全部理解し, 質問に全部答えることができる。 B: 会話の内容を理解し, いくつかの質問に答えることができる。

<p>Passenger: For sightseeing. Officer: How long are you going to stay there? Passenger: For a week. Officer: OK. Have a nice stay. Passenger: Thank you. Goodbye.</p>							
<p>②リズムで練習</p>	<p>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を半分に分けて、ロールプレイで発音練習をさせる。 ☆リズムに乗って発音練習をさせる。 	<p>一斉</p>	<p>15</p>	<p>S,L</p>	<p>表: 係官や旅行者になって、質問や答えを言うことができる。</p>	<p>A: プリントを見ないで、すらすらと会話することができる。 B: プリントを見ながら会話することができる。</p>
<p>③ペアワークで練習</p>	<p>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペアで、約5分間対話練習をさせる。 もし練習が必要であれば、練習時間を延長する。 ☆ 机間巡視し、アドバイスする。 生徒に発表させる。 	<p>ペア</p>		<p>S,L</p>		
<p>3 展開 ゲーム(空港での入国審査)</p>	<p>②③ ④⑤ ⑥⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ALTの説明を聞く。 ☆ ALTとJETは協力して、ゲームの仕方を英語で説明する。 班を作り、活動する。 ☆すべての生徒はALTの入国審査を受ける。 生徒の半分は係官と旅客の役割をする。 前半と後半で役割を変えて、全員が終わればゲームを終了する。 	<p>班</p>	<p>25</p>	<p>S,L</p>	<p>関: 誤りを気にせず、積極的に会話しようとする。</p>	<p>A: すべてのグループをまわり、入国審査を受けることができる。 B: いくつかの入国審査を受けることができた。</p>
<p>4 本時に学習した表現の復習</p>	<p>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> チャンツを用いて新出表現を確認する。 	<p>一斉</p>				
<p>5 自己評価</p>	<p>③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価表に記入させて、集める。 	<p>個人</p>				
<p>6 終わりのあいさつをする。</p>		<p>Goodbye, students. See you.</p>					

Appendix

〈Dialogue〉 At an Immigration Counter

- Passenger : I've just arrived at Hawaii. At last I'm in Hawaii. I've wanted to go there for a long time.
I'm going to stay for a week and go a lot of places for sightseeing.
I'm looking forward to seeing many places. Here we go.
- Officer : Excuse me?
- Passenger : Pardon me?
- Officer : Your passport, please.
- Passenger : OK. Here you are.
- Officer : What's your name?
- Passenger : My name is Taku Ohki.
- Officer : OK. What's your purpose?
- Passenger : For sightseeing.
- Officer : How long are you going to stay there?
- Passenger : For a week
- Officer : All right. Have a nice stay.
- Passenger : Thank you. Good bye.

(Twice)